

かねはまたてあと
金浜館跡

- 市道磯鷄金浜線（金浜工区）道路整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 -
（第2次発掘調査）

2017.3

宮古市教育委員会（岩手県）

かねはまたてあと
金浜館跡

- 市道磯鶏金浜線（金浜工区）道路整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 -
（第2次発掘調査）

2017.3

宮古市教育委員会（岩手県）

序 文

宮古市の歴史は、今から昔約 12,000 年前までさかのぼります。宮古市内にある約 680 もの遺跡には、先人たちが宮古の地で生きるために自然と向き合い、自然から学び、自然から多くを享受した暮らしの痕跡が残されています。

12,000 年前とは、縄文時代の草創期とされる頃で、この頃の遺跡は県内でもまだその数は限られています。宮古地域ではほかの地域に先駆けて人々が暮らしはじめていたこと示しているのかもしれませんが。

金浜館跡は、中世の城館跡とされています。昭和 55 年に老人福祉センター建設により発掘調査が行われ、中世の建物跡や堀跡、縄文時代の貯蔵穴跡が確認されています。

今回の発掘調査では 16 世紀頃に築かれた金浜館跡に伴う堀跡が確認されました。

堀跡は大規模なもので、不安定な社会情勢であった中世において、その危機意識がこの堀跡を見ることで伝わってきます。

最後に、発掘調査ならびに整理作業に多大なご協力をいただいた関係者、関係各位に感謝を申し上げ序文といたします。

平成 29 年 3 月

宮古市教育委員会
教育長 伊藤 晃二

例 言

1. 本書は、市道磯鷄金浜線（金浜工区）道路整備事業に係る金浜館跡発掘調査報告書である。
2. 発掘調査の主体は宮古市教育委員会である。発掘調査および本書の執筆、編集は安原が担当し、文化課職員がこれを補佐した。
3. 座標は平面直角座標系X系（世界測地系）に準拠した。
4. 高さは標高値をそのまま使用した。
5. 遺構の略記号は以下のとおりである。
MD - 堀跡

目 次

序 文

例 言

目 次

I 調査経過

1 調査に至る経過	1
2 調査概要	1
3 調査体制	1

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置と立地	2
2 周辺の遺跡	2

III 調査内容

1 調査の方法	5
2 検出遺構と出土遺物	5
3 調査のまとめ	8
写真図版	9
報告書抄録	12

挿図目次

第1図 宮古市位置図	1	第5図 金浜館跡 遺構配置図	6
第2図 周辺遺跡分布図	3	第6図 MD101堀跡 平面図	7
第3図 地形分類図	4	第7図 MD101堀跡 土層断面図(1)	7
第4図 調査区位置図	5	第8図 MD101堀跡 土層断面図(2)	8

写真図版目次

写真図版1	1	調査区遠景(南から)	9
	2	発掘調査状況(1)(西から)	9
写真図版2	3	発掘調査状況(2)(東から)	10
	4	MD101堀跡 土層断面(西から)	10
写真図版3	5	MD101堀跡 完掘(1)(西から)	11
	6	MD101堀跡 完掘(2)(東から)	11

I 調査経過

1 調査に至る経過

平成27年2月5日に宮古市教育委員会文化課と宮古市都市整備部建設課が、市道磯鶏金浜線(金浜工区)道路整備事業について事前協議を行う。事業計画として、平成27年6月の工事完了であるとして聞き取りした。

建設課から平成27年1月27日付け建第557号で発掘通知がなされ、岩手県教育委員会から平成27年1月29日付け教生第4-210号で試掘調査実施の勧告がなされる。

文化課は、平成27年1月27日付け建第558号で試掘調査の依頼を受け、平成27年2月13日から試掘調査を実施した。

平成27年2月19日に堀跡を確認し、本調査実施のため平成27年2月20日付け教文第898号により埋蔵文化財発掘調査の報告をし調査を行った。

平成27年3月6日に本調査が終了し現場引き渡しを行った。調査の結果、中世の城館跡に伴う堀跡が1条確認され、平成27年3月31日付け教文第1035号により終了報告した。

平成28年4月5日～同年7月12日に資料整理作業を実施した。

平成29年3月31日に発掘調査の成果をまとめた報告書を刊行した。

2 調査概要

所在地 宮古市金浜第1地割内

調査期間 (平成26年度) 試掘調査 平成27年2月13日～同年2月19日

本調査 平成27年2月20日～同年3月6日

(平成28年度) 資料整理 平成28年4月5日～同年7月12日

3 調査体制

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	伊藤 晃二	(平成 25 年 8 月～)
調査総括	竹下 将男	宮古市教育委員会	文化課長	(～平成 26 年度)
	高橋 憲太郎	〃	文化課長	(平成 27 年度～)
事務担当	鎌田 祐二	〃	文化課埋蔵文化財センター所長	(平成 28 年度～)
調査員	江口邦泰	〃	文化課主任文化財調査員	(平成 28 年度～)
	安原 誠	〃	文化課主任文化財調査員	(調査・報告書担当)
	伊藤正人	〃	文化課主任文化財調査員	(平成 28 年 4 月～名古屋市派遣)
	阿部 豊	〃	文化課埋蔵文化財発掘調査員	
	前川友宏	〃	文化課埋蔵文化財調査員	
	赤沼みちる	〃	文化課埋蔵文化財調査員	

発掘調査作業員 石崎衛司 大下義文 坂本晃 佐々木孝一 佐々木壽郎 佐々木信晴 佐藤重信
澤田榮夫 鈴木祥一 三河義郎 山根清美 山根保行

資料整理作業員 坂本晃

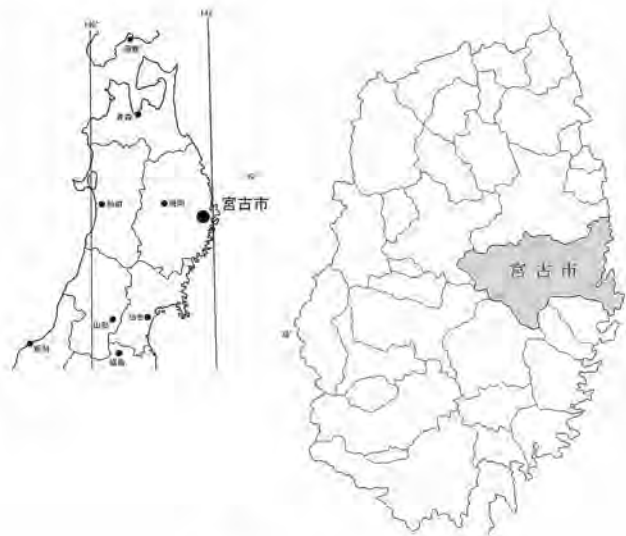
II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置と立地

宮古市は日本を代表する漁場のひとつ三陸海岸の中央部に位置し、本州最東端の町としても知られる。平成 17 年 6 月に宮古市・田老町・新里村と合併し、平成 22 年 1 月に川井と合併した。市域は面積は 1,259K ㎡、人口は 55,000 人である。

宮古市の地形は、主な河川である閉伊川、八木沢川、津軽石川とその支流により形成された谷底地形、氾濫平野があるほかは、そのほとんどが山地もしくは丘陵地形となっている。

金浜館跡は宮古湾に面した丘陵地にあり、北緯 39° 35′ 51″・東経 149° 56′ 38″ に位置する。



第 1 図 宮古市位置図

2 周辺の遺跡

金浜地区は宮古湾に面した集落であり、この集落の北側に金浜館跡がある。

金浜館跡は、東西に連なる丘陵の東端部にある。館跡は眺望が良く、東は宮古湾や重茂半島、南北も海岸線とこれに沿って点在する集落を遠くまで見渡すことができる。

金浜館跡の周辺の遺跡は、東側では宮古湾岸に沿って遺跡が点在する。西側は、花輪山地のほぼ中央を南北に流れる八木沢川に沿って遺跡が確認されている。縄文時代とされる遺跡が多くを占めるが、八木沢川

や八木沢古館といった中世の城館跡とされる遺跡も周辺に点在する。

高浜VI地神遺跡は、金浜館跡の北側にあり、平成15年に調査が行われ、縄文時代中期～後期の竪穴住居跡や貯蔵穴跡が確認されている。

高浜V下地神遺跡は、平成28年度に調査が行われ、縄文時代中期の集落跡が確認されている(報告書未刊行)。

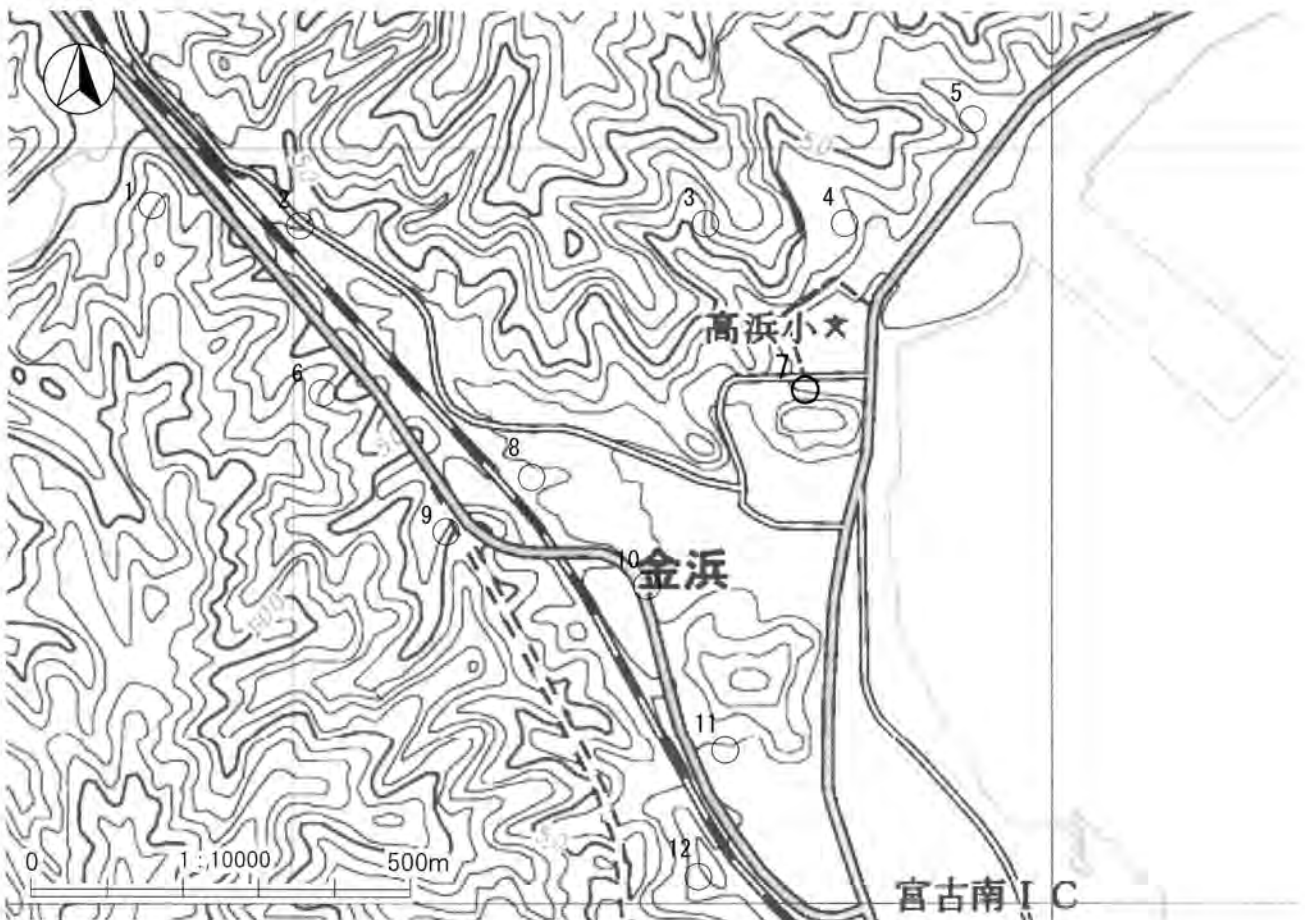
金浜館跡の西側では三陸沿岸道整備に伴い大規模な発掘調査が複数の遺跡で行われており、縄文時代～中世にかけての貴重な資料が数多く確認されている。

金浜館跡も含め三陸沿岸では、復興事業に伴い大規模に発掘調査が行われており、資料の蓄積と分析が進むなかで新たな地域史の構築がなされるものと期待される。

〈参考文献〉

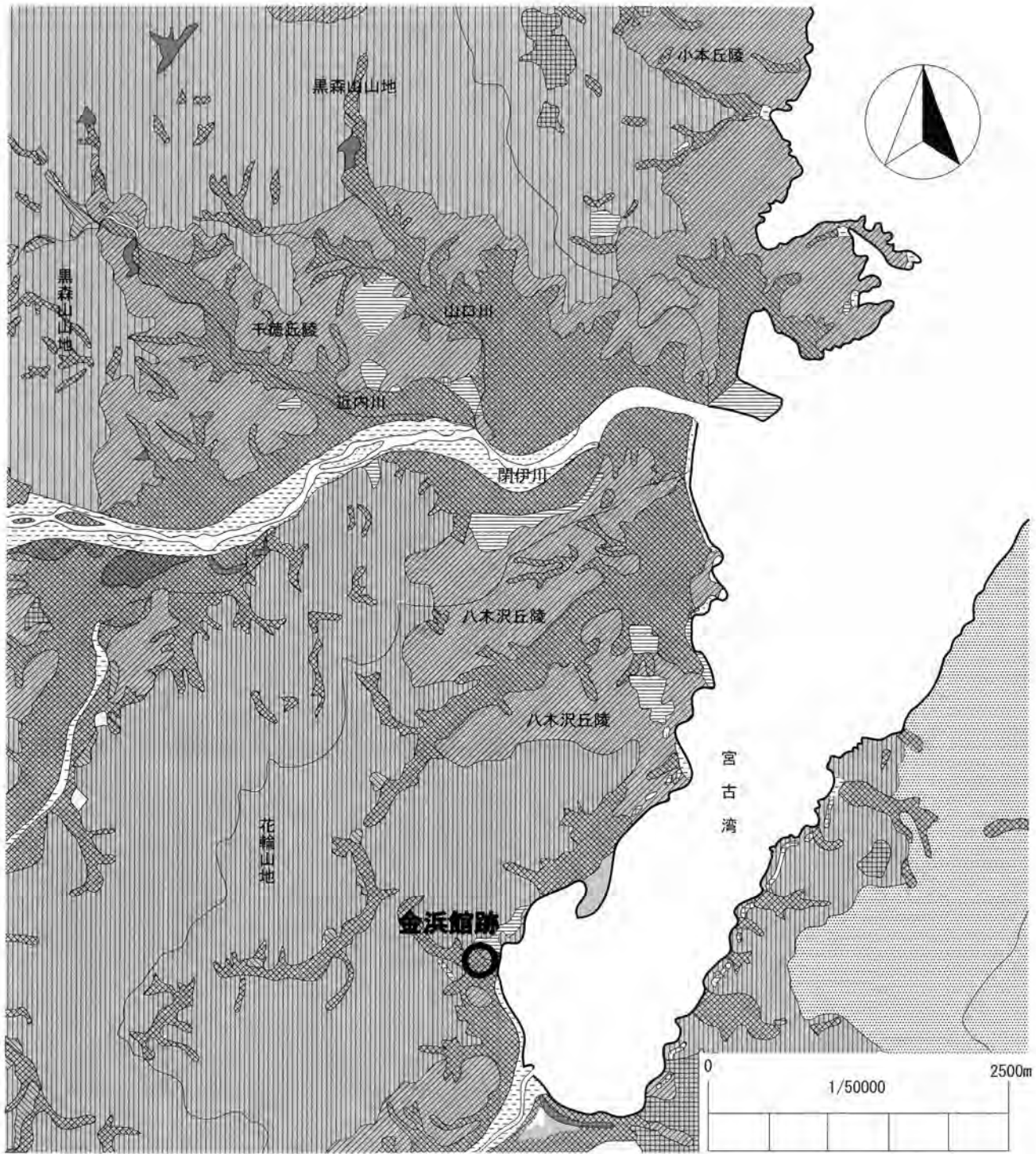
宮古市教育委員会『金浜館発掘調査報告書 宮古市埋蔵文化財調査報告書第7集』1985

宮古市教育委員会『高浜VI地神遺跡－高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書－ 宮古市埋蔵文化財調査報告書65集』2006



No.	遺跡名	遺跡コード	種別	時代	遺構・遺物
1	下大谷地 I	LG43-2206	散布地	縄文	縄文土器 (前・中期)
2	賽の神 I	LG43-2209	散布地	縄文	縄文土器 (前・中・後期)
3	金浜堤ヶ沢	LG43-2314	製鉄跡		鉄滓
4	高浜VI地神	LG43-2316	散布地	縄文	縄文土器 (中期)
5	高浜V下地神	LG43-1398	散布地	縄文	縄文土器 (早・前・中期)
6	賽の神 II	LG43-2330	散布地	縄文・古代	縄文土器、石器、土坑、炭
7	金浜館	LG43-2335	城館跡	中世・縄文	主郭、帯郭、空堀、フラスコ状ピット
8	金浜 I	LG43-2342	散布地	縄文・平安	縄文土器 (前～後期)、石器、土師器
9	賽の神 III	LG43-2353	集落跡・生産遺跡	縄文・古代	竪穴住居跡、土坑、製鉄炉、鍛冶炉、廃滓遺構、縄文土器、石器、土師器、鉄製品、磁石、鉄滓、鞆羽口
10	金浜 II	LG43-2363	集落跡	古代	土師器
11	金浜 III	LG43-2384	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器
12	金浜 IV	LG43-2394	散布地	縄文	縄文土器

第2図 周辺遺跡分布図



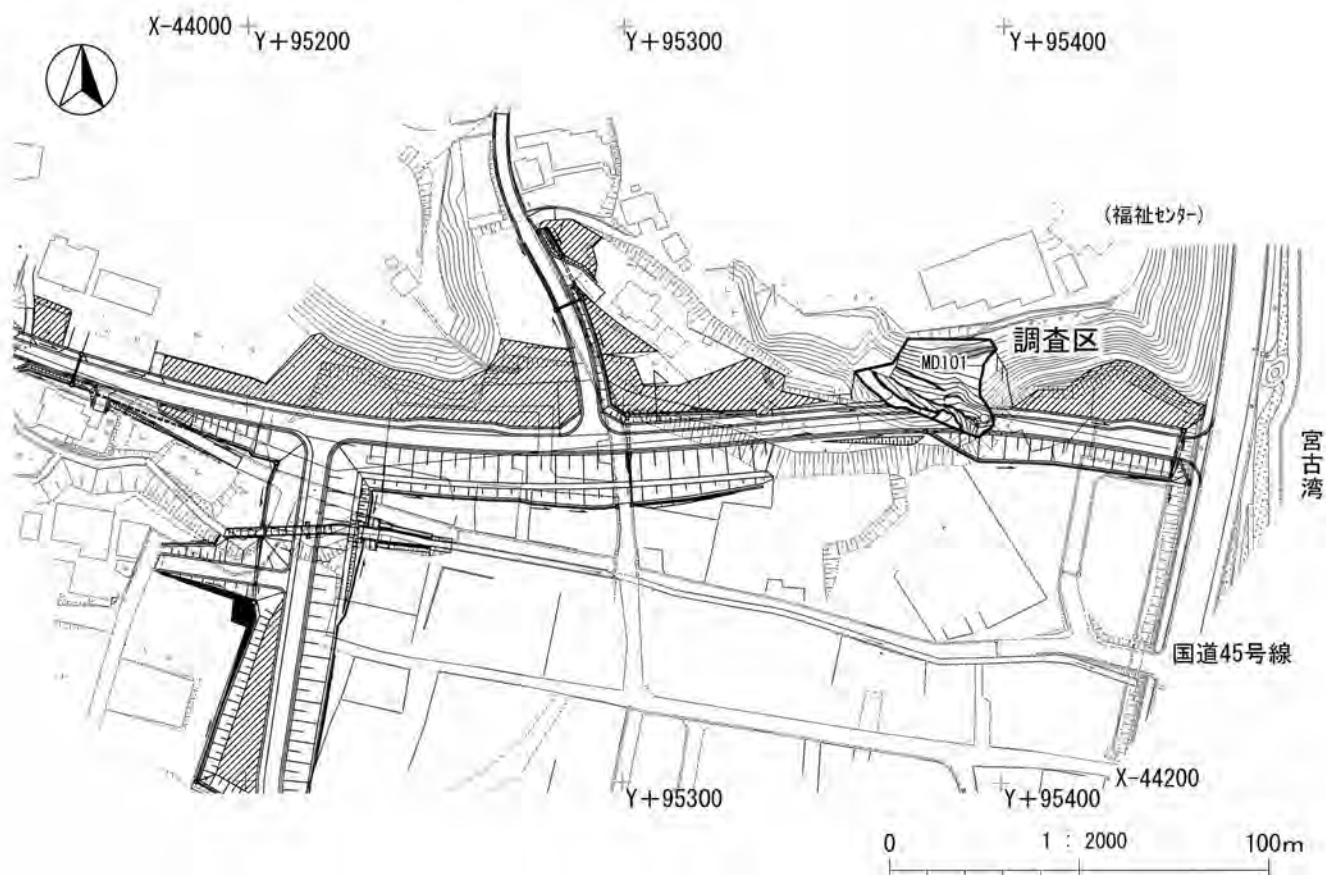
中起伏山地		扇状地		旧河道	
小起伏山地		崖錐性扇状地		浜及び河原	
山ろく		谷底平野		裸出砂丘	
丘陵地		三角州		人口改变地	
砂礫段丘Ⅲ		自然堤防		崖	

第3図 地形分類図

Ⅲ 調査内容

1 調査の方法

調査区の現況は荒蕪地である。調査対象面積は 598 m²である。昭和 55 年の調査で堀跡が確認されている地点であることから、この成果も用いながら発掘調査を行った。



第4図 調査区位置図(1)

3 検出遺構と出土遺物

MD101 堀跡 (第6～8図)

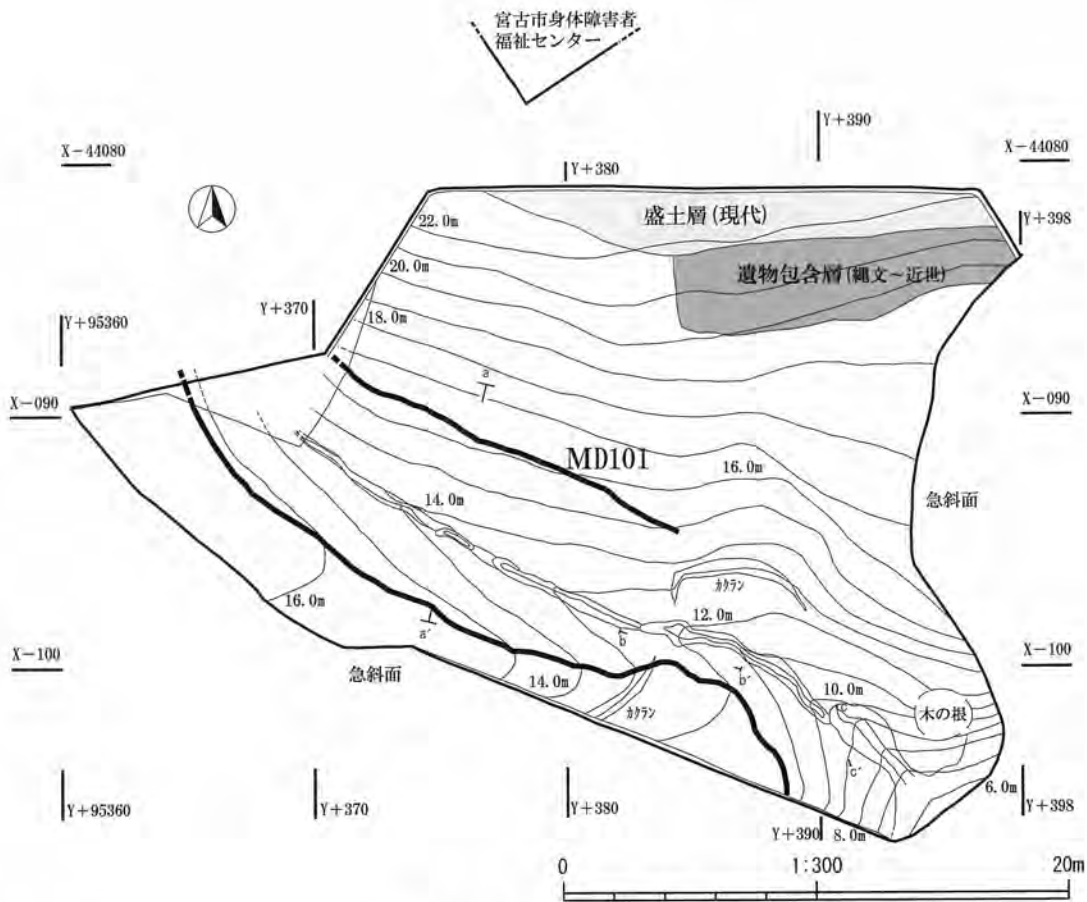
〈検出状況〉調査区南側、地山面で掘り込み跡を確認した。

〈規模・形態〉堀跡は、調査区南側で確認された。表土を取り除くと掘り込み跡が確認された。堀跡の上面は後世の削平を受けている。堀跡はおよそ北西から南東方向に築かれている。堀跡は、調査区外の北西側にさらに続いていくことが確認された。薬研堀であり、深さは土層断面の位置で 2.1 m である。覆土は 3 層に大別され、a 層は耕作土層 (近現代)、b 層は自然堆積層である。c 層は砂礫層であるが薄く水平に堆積し固く締まる状況が確認された。堀跡の底面は、雨列が入っており、南東側に向かって下っている。〈出土遺物〉覆土中から縄文土器片や礫石器が出土した。堀跡北側で見つかった縄文時代の遺構に伴うものと考えられる。

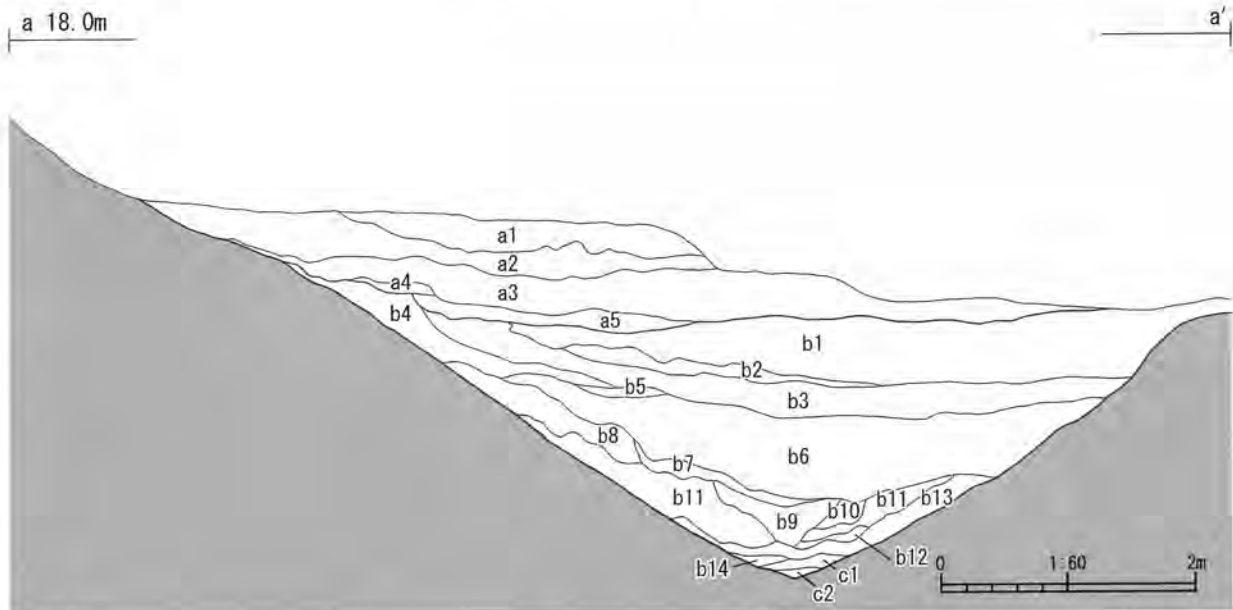
〈時期・時代〉16 世紀のものと考えられる。底面が傾斜することと、固く締まる c 層が確認されたことから、堀跡としてだけでなく、城館と麓の集落を行き来する堀底道のような使われ方があった可能性も想定される。



第5図 金浜館跡 遺構配置図



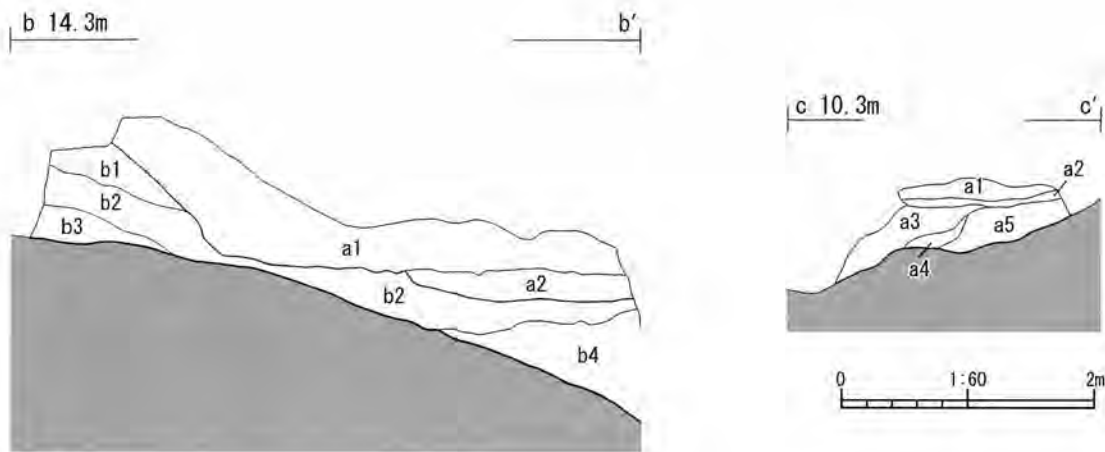
第6図 MD101 堀跡 平面図



MD101 (a-a')

a1 砂質埴土 (10YR4/1) 10YR7/4 径2~5mm 塊状 5% 砂質 疎	b7 砂質埴土 (10YR7/2) 10YR5/2 径2~10mm 塊状 5% 砂質 疎
a2 砂質埴土 (10YR6/3) 10YR7/4 径2~10mm 塊状 10% 砂質 疎	b8 砂質埴土 (10YR7/1) 10YR5/2 径2~30mm 塊状 3% 砂質 疎
a3 砂質埴土 (10YR5/2) 10YR7/3 ~ 7/4 径5~10mm 塊状 5% 砂質 疎	b9 砂質埴土 (10YR5/2) 10YR7/2 径2~50mm 塊状 3% 砂質 疎
a4 砂質埴土 (10YR7/4) 10YR7/3 径2mm 塊状 1% 砂質 疎	b10 砂質埴土 (10YR6/2) 10YR7/2 径2~30mm 塊状 10% 砂質 疎
b1 砂質埴土 (10YR5/2) 10YR7/4 径2~50mm 塊状 5% 砂質 疎	b11 砂質埴土 (10YR7/2) 10YR6/2 径5~30mm 塊状 3% 砂質 疎
b2 砂質埴土 (10YR7/3) 10YR5/2 径5~10mm 塊状 3% 砂質 疎	b12 砂質埴土 (10YR5/2) 10YR7/2 径2~10mm 塊状 10% 砂質 疎
b3 砂質埴土 (10YR5/2) 10YR7/3 径2~5mm 塊状 3% 砂質 疎	b13 砂質埴土 (10YR5/2) 10YR7/3 径2~5mm 塊状 5% 砂質 疎
b4 砂質埴土 (10YR7/4) 10YR7/3 径2~10mm 塊状 1% 砂質 疎	b14 砂質埴土 (10YR5/3) 10YR5/2 径2~5mm 塊状 1% 砂質 疎
b5 砂質埴土 (10YR7/3) 10YR5/2 径2~5mm 塊状 1% 砂質 疎	c1 砂質埴土 (10YR5/3) 10YR7/2 径2~5mm 塊状 1% 砂質 密
b6 砂質埴土 (10YR5/2) 10YR7/4 径2~5mm 塊状 3% 砂質 疎	c2 砂質埴土 (10YR5/1) 10YR7/2 径2~5mm 塊状 1% 砂質 密

第7図 MD101 堀跡 土層断面図(1)



MD101 (b-b')

- a1 砂質埴土 (10YR5/4) 10YR6/4 径 2 ~ 50mm 塊状 5% やや砂質 密 (カクラン層)
- a2 砂質埴土 (10YR6/2) 10YR7/2 径 2 ~ 100mm 塊状 10% やや砂質 やや密 (カクラン層)
- b1 砂質埴土 (10YR5/2) 10YR7/2 径 2 ~ 5mm 塊状 3% 砂質 疎 (MD101 覆土)
- b2 砂質埴土 (10YR5/1) 10YR7/2 径 2 ~ 5mm 塊状 1% 砂質 疎 (MD101 覆土)
- b3 砂質埴土 (10YR5/2) 10YR7/2 径 2 ~ 5mm 塊状 5% 砂質 疎 (MD101 覆土)
- b4 砂質埴土 (10YR5/2) 10YR7/2 径 2 ~ 10mm 塊状 10% 砂質 疎 (MD101 覆土)

MD101 (c-c')

- a1 砂質埴土 (10YR5/2) 10YR7/2 径 2 ~ 5mm 塊状 10% 砂質 疎
- a2 砂質埴土 (10YR5/2) 10YR4/1 径 2 ~ 10mm 塊状 5% 10YR7/2 径 2 ~ 5mm 塊状 5% 砂質 疎
- a3 砂質埴土 (10YR6/1) 10YR7/2 径 2 ~ 5mm 塊状 3% 砂質 疎
- a4 砂質埴土 (10YR6/1) 10YR7/2 径 2 ~ 5mm 塊状 1% 砂質 疎
- a5 砂質埴土 (10YR6/2) 10YR5/2 径 2 ~ 5mm 塊状 5% 砂質 疎

第 8 図 MD101 堀跡 土層断面図 (2)

4 調査のまとめ

調査地点は、昭和 55 年に福祉センター建設のための試掘調査により堀跡と考えられる遺構が確認されていたところである。調査の結果、試掘調査で確認されていたとおり堀跡が確認された。

堀跡は、地形に沿ってほぼ東西に掘り込まれている。堀跡は西側の調査区外にさらに続き、東側は、斜面を掘り抜くようになっている。

堀跡の南側は平坦となっているが、後世の開墾等で掘削されてできたものと考えられる。堀跡は、本来はもっと幅が広く、深さのあるものであったと考えられる。

なお、調査区の北側、斜面部の上で縄文から近世の遺物を含む包含層を確認した。今回の工事で掘削の影響を受けないため、この包含層は調査はせず、現況のみ確認をした。

〈参考文献〉

宮古市教育委員会 『金浜館発掘調査報告書 宮古市埋蔵文化財調査報告書第 7 集』 1985

宮古市教育委員会 『高浜VI地神遺跡—高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書— 宮古市埋蔵文化財調査報告書 65 集』 2006

写真図版 1



1 調査区遠景（南から）



2 発掘調査状況(1)（西から）

写真図版 2



3 発掘調査状況（東から）



4 MD101 堀跡 土層断面（西から）

写真図版 3



5 MD101 堀跡 完掘 (1) (西から)



6 MD101 堀跡 完掘 (2) (東から)

報告書抄録

ふりがな	かねはまたてあと
書名	金浜館跡
副書名	- 市道磯鷗金浜線(金浜工区)道路整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-(第2次発掘調査)
巻次	
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	92
編著者名	安原 誠
編集機関	宮古市教育委員会
所在地	〒027-0097 岩手県宮古市崎山第1地割16番地1 Tel 0193-65-7527 Fax 0193-65-7508
発行年月日	平成29(2017)年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かねはまたてあと 金浜館跡	いわてけん 岩手県 みやこし 宮古市 かねはまたてあと 金浜第1地割内	03202	LG43- 2335	39°35'51"	141°56'38"	270213 ~ 270306	598	市道磯鷗金浜線(金浜工区)道路整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金浜館跡	城館跡	縄文 中世	堀跡	縄文土器	城館跡(16世紀)に伴う堀跡

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覽

- 1 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』
- 2 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』
- 3 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書 1』
- 4 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書 2』
- 5 1984 『赤前遺跡群第 1 次・第 2 次発掘調査報告書』
- 6 1985 『宮古市遺跡分布調査報告書 3』
- 7 1985 『金浜館跡発掘調査報告書』
- 8 1986 『宮古市遺跡分布調査報告書 4』
- 9 1986 『宮古市遺跡分布図 - 昭和 60 年度版 -』
- 10 1986 『中谷地・島田遺跡調査報告書』
- 11 1987 『崎山貝塚・トロノ木 IV 遺跡調査報告書』
- 12 1987 『寒風・早稲橋 IV 遺跡調査報告書』
- 13 1987 『崎山遺跡群 I - 昭和 61 年度発掘調査概報 -』
- 14 1988 『青猿 I・下在家 II・千徳城遺跡群(堀合館)』
- 15 1988 『崎山遺跡群 II - 昭和 62 年度発掘調査概報 -』
- 16 1989 『千鶴遺跡 - 昭和 62 年度発掘調査報告書 -』
- 17 1989 『トノノ木 I 遺跡 - 第 1 ~ 7 次発掘調査報告書 -』
- 18 1989 『崎山遺跡群 III - 昭和 63 年度発掘調査概報 -』
- 19 1989 『高根遺跡 - 昭和 63 年度発掘調査報告書 -』
- 20 1989 『狐崎 II 遺跡 - 昭和 63 年度発掘調査報告書 -』
- 21 1989 『崎山トノノ木 IV 遺跡 - 昭和 63 年度調査報告書 -』
- 22 1990 『狐崎遺跡 - 平成元年度発掘調査報告書 -』
- 23 1990 『崎山遺跡群 IV - 平成元年度発掘調査概報 -』
- 24 1990 『磯鷗館山遺跡 - 昭和 63 年度発掘調査報告書 -』
- 25 1990 『鍛ヶ崎館山貝塚 - 平成元年度発掘調査報告書 -』
- 26 1991 『崎山遺跡群 V - 平成 2 年度発掘調査概報 -』
- 27 1991 『青猿 I・千徳城遺跡群 - 平成元年・2 年度発掘調査報告書 -』
- 28 1990 『熊野町遺跡 - 昭和 63 年度発掘調査報告書 -』
- 29 1991 『松川 I 遺跡 - 平成 2 年度発掘調査報告書 -』
- 30 1992 『金浜 I 遺跡(昭和 58 年度)・大付遺跡(平成 2 年度)発掘調査報告書』
- 31 1992 『重茂館遺跡群 - 第 1 次調査報告書 -』
- 32 1992 『黒森町 I 遺跡 - 平成 2 年度発掘調査報告書 -』
- 33 1992 『高根遺跡 - 平成 3 年度発掘調査報告書 -』
- 34 1992 『鯉沢遺跡 - 平成 2 年度発掘調査報告書 -』
- 35 1992 『大付遺跡 - 平成 3 年度発掘調査報告書 -』
- 36 1992 『細越 I 遺跡・芋野 II 遺跡 - 農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書 -』
- 37 1992 『崎山遺跡群 VI - 平成 3 年度発掘調査概報 -』
- 38 1993 『萩沢 II 遺跡 - 平成 4 年度発掘調査報告書 -』
- 39 1993 『早稲橋 II 遺跡 - 第 1 次・第 2 次発掘調査報告書 -』
- 40 1993 『崎山遺跡群 VII - 平成 4 年度発掘調査概報 -』
- 41 1994 『崎山遺跡群 VIII - 平成 5 年度発掘調査概報 -』
- 42 1995 『赤前 I 牛子沢遺跡 - 平成 4 年度発掘調査報告書 -』
- 43 1995 『磯鷗館山遺跡発掘調査報告書』
- 44 1995 『崎山貝塚 - 龍田確認調査報告書 -』
- 45 1995 『笹沢 I・加村・仲組 III・堺ノ神遺跡 - 市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 46 1995 『花原市遺跡 - 平成 4 年度発掘調査報告書 -』
- 47 1995 『宮古市内遺跡発掘調査概報 I 早稲橋 II 遺跡・崎山貝塚』
- 48 1996 『大付遺跡 - 平成 5 年・6 年度発掘調査報告書 -』
- 49 1997 『花原市遺跡 - 平成 8 年度発掘調査報告書 -』
- 50 1997 『白石遺跡 - 第 6 次発掘調査報告書 -』
- 51 1998 『赤畑・天神山・山口館 - 北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書 -』
- 52 1998 『藤畑遺跡 - 平成 9 年度発掘調査報告書 -』
- 53 1999 『赤前 III・赤前 IV 八枚田・赤前 V 柳沢・赤前 VI 釜屋ヶ沢・小地内 III 遺跡 - 水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 -』
- 54 1999 『千鶴 IV 遺跡 - 水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 -』
- 55 1999 『崎山貝塚 - 第 12 次・13 次内容確認調査概報 -』
- 56 2000 『木戸井内 II・木戸井内 III・上村 III 遺跡 - 特別高压送電線 7 号工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書 -』
- 57 2002 『山口館跡 - 北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書 -』
- 58 2002 『小沢 II 大上遺跡 - 市内遺跡発掘調査報告書 2 -』
- 59 2003 『大沢 II 遺跡 - 東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書 -』
- 60 2003 『上根井沢 I 遺跡・沼里遺跡 - 市内遺跡発掘調査報告書 3 -』
- 61 2003 『早稲橋 II 遺跡第 6 次調査 - 市内遺跡発掘調査報告書 4 -』
- 62 2003 『下在家 I 遺跡 - 平成 14 年度発掘調査報告書 -』
- 63 2004 『大程 II 遺跡・平浜遺跡 - 市道伊崎線改良工事関係発掘調査報告書 -』
- 64 2005 『弘川館跡 - 瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書 -』
- 65 2006 『高根 VI 地神遺跡 - 高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書 -』
- 66 2006 『崎山貝塚第 20 次調査・早稲橋 II 遺跡第 7 次調査 - 市内遺跡発掘調査報告書 5 -』
- 67 2006 『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込 I 遺跡 - 市道岸ノ前ラント沢線道路工事関係発掘調査報告書 -』
- 68 2006 『木戸井内 IV 遺跡 - 宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書 -』
- 69 2006 『菅ノ沢遺跡発掘調査 - 市内遺跡発掘調査報告書 6 -』
- 70 2007 『山口館跡 - 市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書 -』
- 71 2007 『近内館跡 - 古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書 -』
- 72 2007 『牛沢遺跡・大付遺跡第 11 次調査 - 市内遺跡発掘調査報告書 7 -』
- 73 2007 『弘川館跡第 2 次調査 - 宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書 -』
- 74 2008 『荷竹日向 IV 遺跡 - 市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書 -』
- 75 2008 『宮古市遺跡分布調査報告書 5』
- 76 2009 『国指定史跡 崎山貝塚 第 IV 期内容確認調査概報(骨角器箱)』
- 77 2010 『宮古市遺跡分布調査報告書 6』
- 78 2011 『宮古市遺跡分布調査報告書 7』
- 79 2012 『重茂館遺跡群 - 第 2 次発掘調査報告書 -』
- 80 2014 『八木沢駒込 I 遺跡・八木沢駒込 II 遺跡 - 市道磯鷗金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書 -』
- 81 2014 『蜂ヶ沢 I 遺跡・山口駒込 I 遺跡・山口駒込 II 遺跡 - 市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書 -』
- 82 2014 『赤畑東遺跡 - 山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書 -』
- 83 2015 『千徳城遺跡群 - 一条工務店モデルハウス建築工事関係発掘調査報告書 -』
- 84 2015 『黒森町 I 遺跡 - 宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査報告書 -』
- 85 2015 『菅ノ沢遺跡・柵館 I 遺跡 - 市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書 -』
- 86 2016 『千徳城遺跡群 - アパート建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書 -』
- 87 2017 『重茂館遺跡群 - 重茂小学校校舎改修工事後整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 - (第 3 次発掘調査)』
- 88 2017 『重茂館遺跡群 - 重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 - (第 4 次発掘調査)』
- 89 2017 『重茂館遺跡群 - 重茂漁業協同組合重茂給油所建設に伴う発掘調査報告書 - (第 5 次発掘調査)』
- 90 2017 『下大谷地 VI 遺跡 大谷地 I 遺跡 - 市道下大谷地花輪線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 -』
- 91 2017 『千鶴 III 遺跡 - 千鶴地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 -』

宮古市埋蔵文化財調査報告書 92

金浜館跡

- 市道磯鷗金浜線(金浜工区)道路整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 -
(第 2 次発掘調査)

発行 平成 29(2017)年 3 月 31 日

宮古市教育委員会

〒 028-2101 岩手県宮古市茂市 2-112-1

編集 宮古市教育委員会文化課

〒 027-0097 岩手県宮古市崎山第 1 地割 16 番地 1

TEL 0193-65-7527 Fax 0193-65-7508

印刷 株式会社文化印刷

〒 027-0037 岩手県宮古市松山 5 地割 13 番地 6

TEL 0193-62-4578 Fax 0193-64-0333

